

動詞「おさえる」の多義構造

—日本語教育の観点から—

李 澤 熊

要 旨

本稿は、動詞「おさえる」が持つ複数の意味を記述し、それら複数の意味の関連性（多義構造）を明らかにすることを旨としたものである。分析の結果、「おさえる」について7つの多義的別義を認定することができた。別義間の関連性については、隠喩(メタファー)と換喩(メトニミー)という2つの比喩の観点から考察を行い、7つの別義間の関連性を明らかにすることができた。

次に、以上の分析に基づき、それぞれの別義の効果的な学習指導方法について考察した。具体的には、いくつか注目すべき別義の「コロケーション」を提示することによって学習を促すとともに、それぞれの別義において想定され得る「誤用例」も提示し、その理由・原因について検討した。

キーワード

多義語、多義構造、比喩、コロケーション、誤用例分析

目 次

1. はじめに
2. 「おさえる」の意味分析
3. 日本語教育の観点からの考察—コロケーションの提示と誤用例分析—
4. まとめ

1. はじめに

動詞「おさえる」(注1)は基本動詞として扱われ、日本語教育においても重要な学習項目の一つとなっている。しかし、「おさえる」は多様な意味を担っている多義語(注2)であるため、その学習指導方法というものは必ずしも容易ではない。

さて、現在刊行されている辞典・辞書類を調べてみると、動詞「おさえる」は多義語として扱われているが、それらの意味を選んで掲げる基準は必ずしも明らかではない。また、当然のことながらそれぞれの意味の相互関係も不明確である。そこで、本稿ではまず「おさえる」が持つ複数の意味を記述し、それらの複数の意味の関連性(多義構造)を明らかにする。

次に、以上の分析に基づき、それぞれの別義の効果的な学習指導方法について考察する。具体的には、各別義における「コロケーション」を提示することによって学習を促すとともに、各別義において想定され得る「誤用例」も提示し、その理由・原因について検討する。なお、「おさえる」の複数の意味の関連性については、隠喩(メタファー)と換喩(メトニミー)という2つの比喩の観点から考察する(注3)。それぞれの定義は初山・深田(2003)、初山(2010)に従い、以下のように示す。

メタファー：2つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩。「類似性に基づく」というのは、2つの事物・概念に類似性が内在しているというよりも、人間が2つの対象の間に主体的に類似性を見出すことを表していると考えたほうが適切である。

例) 外見の類似性に基づくメタファー：「トンボ」という語には、〈グラウンド整備の道具(の一種)〉という意味もあるが、この意味は、この道具が、昆虫の「トンボ」(「トンボ」の本来の意味)の形に似ていることに基づくものである。つまり、外見の類似性に基づくメタファーと考

えられるものである。

抽象的な類似性に基づくメタファー：「故障」とは本来〈機械などが正常に機能しなくなること〉であるが、「肩の故障で、今シーズンを棒に振ってしまった」というように、「人間」に関して使われる場合もある。この場合の「故障」は〈スポーツ選手などの体（の一部）が正常に機能しなくなること〉である。この新しい意味は、〈正常な機能が果たせなくなること〉という本来の意味との共通点（つまり、抽象的な類似性）に基づくメタファーと考えられるものである。

メトニミー：2つの事物の外界における隣接性、さらに広く2つの事物・概念の思考内、概念上の関連性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表す比喩（注4）。

例) 空間における隣接：「黒板を消す」という場合、〈黒板〉と〈黒板に書かれた文字〉が隣接していることに基づいて、本来〈黒板〉を表す「黒板」という形式を、〈黒板〉と隣接している〈黒板に書かれた文字〉を表すのに用いる。
手段と目的の関係：「今回だけは目をつぶってやろう」における「目をつぶる」は、おおよそ〈見なかったことにする／黙認する〉という意味である。ここで「目をつぶる」の字義通りの行為の意味と〈見なかったことにする〉という意味の関係を考えると、我々は「目をつぶる」ことによって、ある対象を見ないようにすることができることから、字義通りの意味が手段を表し、〈見なかったことにする〉という意味は目的を表していることになる。

2. 「おさえる」の意味分析

本稿では、「おさえる」について7つの多義的別義を認め、考察を行う。

2. 1 多義的別義 (1) (基本義) : 〈人が〉〈身体・生き物・もの (のある部分) に〉〈力や重みを加えて〉〈元の場所・状態から〉〈動かない・離れないようにする〉

- (1) 蝶の羽が傷つかないように、指先で軽く {押さえる}。
- (2) 帽子が風に飛ばされないように、両手でしっかり {押さえる}。
- (3) ペットが暴れることがありますので、あまり強く {押さえないで} ください。
- (4) 地震が起きたとき、患者さんがベッドから落ちないように体を {押さえて} いました。

別義 (1) は、人の身体や生き物、ものなどの対象物 (のある部分) に対して、手や道具などを用いて力や重みを加え、そこから動かない、離れない (逃げない) ようにする場合に用いられる。対象物を動かない、離れないようにするためには、対象物に対して及ぶ力が話者の支配下に置かれる必要がある。従って、単に力を加えるだけではなく、対象物を覆うように重みを加えながら働きかける場合に使われる。

2. 2 多義的別義 (2) : 〈人が〉〈身体部分に対して〉〈手やものを覆うように〉〈あてる〉

- (5) あまりの轟音に思わず耳を {押さえた}。
- (6) ガーゼで傷口をしっかりと {押さえて} ください。
- (7) 廊下で、生徒がお腹を {押さえて} しゃがんでいる。
- (8) 目薬をさした後、軽く目頭を {押さえて} ください。

別義（１）は、ある対象物に力や重みを加えてそこから動かない、離れない（逃げない）ようにする場合に用いられるのに対して、この別義（２）は身体部分に対して、手やものを覆うようにあてるという点で異なる。ただし、いずれも「何らかの目的で、ある対象物に力を加える」という点では共通している。つまり、別義（２）は、別義（１）から隠喩（メタファー）によって意味拡張が成り立っていると考えられる。なお、別義（２）は「強烈な悪臭に鼻を {押さえる}」「あまりの轟音に耳を {押さえる}」というように、痛み・笑い・匂い・騒音などの感覚・感情を和らげる場合に用いられることが多い。

2. 3 多義的別義（３）：〈人や組織が〉〈相手の行為・活動の実現を〉 〈何らかの方法で〉〈おしとどめる〉

- (9) 敵の侵入を {抑える} ために城壁を造る。
- (10) 世界選手権で、高橋選手は並み居るライバルたちを {抑えて} 初優勝を飾った。
- (11) 昨日の決勝戦では、相手打線を 3 安打に {抑え}、見事に完封勝利を収めた。
- (12) 軍事力の強化はテロを {押さえる} ための根本的な解決策になり得るでしょうか。

別義（１）はある対象物に物理的な力を加えて、そこから動かない・離れないようにする場合に用いられるのに対して、この別義（３）はある人・組織に抽象的な力を加えて（つまり、何らかの働きかけによって）、人・組織の活動を抑制するという点で異なる。ただし、いずれも「ある対象物に何らかの力を加えることによって、（その対象物に）何らかの制限をかける」という点では共通している。つまり、別義（３）は、別義（１）から隠喩（メタファー）によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

なお、漢字表記は一般的に物理的な力を加える意では「押」、抑止・抑

制を示す意では「抑」を使うことが多い。

- (13) a 帽子を {抑さえる}。
b 住民の反対を {抑える}。

2. 4 多義的別義(4):〈人や組織が〉〈ある物事の状態に対して〉〈ある限度を〉〈超えないようにする〉

- (14) 収入が減ったら、出費を {抑える} しかない。
(15) 現政権の最大の課題は、物価の上昇を {抑える} ことです。
(16) 近年のダイエットブームにより、カロリーを {抑えた} 食品が人気を集めている。
(17) 県警は交通事故防止のために、大学付近での車の最高速度を40キロに {抑えた}。

別義(3)は、ある人・組織に対して、その活動を制止する場合に用いられるのに対して、この別義(4)は、ある物事(の状態)に対して、ある範囲・限度を超えないようする場合に用いられるという点で異なる。ただし、いずれも「ある対象物に何らかの力を加えることによって、(その対象物に)何らかの制限をかける」という点では共通している。つまり、別義(4)は、別義(3)から隠喩(メタファー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

なお、この「おさえる」主体は、基本的に「人・組織」に限られるが、「この薬は植物の成長を {抑える}」というように「無情物」が用いられる場合もある。ただし、その背景には人間による何らかの働きかけが暗示されている。

2. 5 多義的別義（5）：〈人が〉〈自分の欲望や感情の高ぶりを〉〈何らかの方法で〉〈おしとどめる〉

- (18) 最近、食欲を |抑えられず| つい食べ過ぎてしまう。
- (19) これほど |抑えた| 演技ができる役者はそういない。
- (20) 怒りや悲しみを |抑える| 方法があれば教えてほしい。
- (21) 彼の歌が下手すぎて、こみ上げてくる笑いを |抑える| ことができなかった。

別義（3）は、人や組織の行為・活動に対して用いられるのに対して、この別義（5）は、人の欲望や感情などの心情に対して用いられるという点で異なる。ただし、いずれも「ある対象物に対して、何らかの力を加えることによって、（その対象物に）何らかの制限をかける」という点では共通している。つまり、別義（5）は、別義（3）から隠喩（メタファー）によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

2. 6 多義的別義（6）：〈人や組織が〉〈他の人・組織・もの・場所に対して〉〈支配下におかれたものとして〉〈確保する〉

- (22) 売り切れる前に、チケットを |押さえて| おく。
- (23) 裁判で勝つためには、証拠や証人を |押さえる| ことが何よりも重要である。
- (24) 家族に重病人がいる場合は、電話で来てもらえるタクシー会社を |押さえて| おく必要がある。
- (25) 全国大会の開催日程が決まったら、まず会場から |押さえる|。
- (26) 最近、海外からの観光客が増えて、ホテルを |押さえる| ことが難しくなった。

別義（1）は、ある対象物に対して、手や道具などを用いて具体的な力

を加える場合に用いられるが、別義(6)は、問題となる対象物に対して、抽象的な力を加えるという点で異なる。ただし、いずれも「主体が対象物をコントロールできる状態にする」という点では共通している。つまり、別義(6)は、別義(1)から隠喩(メタファー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

さらに、この「おさえる」は単に主体のコントロールできる状態にするということだけではなく、「問題となる対象物を主体の支配下におかれたものとして確保する」ということまで表しており、別義(1)とは手段と目的の関係にもあると考えられる。というのは、主体の支配下におかれたものとして確保するためには、対象物を動かない・離れない、つまりコントロールできる状態にする必要があるということである。このことから、別義(6)は別義(1)から換喩(メトニミー)によっても意味拡張が成り立っていると考えられる。

2. 7 多義的別義(7):〈人が〉〈ある事柄に対して〉〈重要な点を〉〈理解・把握する〉

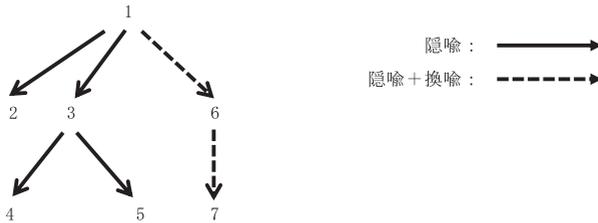
- (27) 業務の流れと内容を {押さえて} おく。
- (28) 彼は物事の要点を {押さえる} 能力がずば抜けて高い。
- (29) この論文は重要なポイントをしっかりと {押さえて} いる。
- (30) 試験対策として、まずは過去問題と傾向を {押さえる} ことから始めましょう。

別義(6)は、人・もの・場所などの具体物に対して用いられるが、別義(7)は、要点・内容などの抽象物(事柄)に対して用いられる。ただし、いずれも「対象物が主体の支配下におかれたものとしてとらえられる」という点では共通している。つまり、別義(7)は、別義(6)から隠喩(メタファー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

さらに、この「おさえる」は、単に対象物を主体の支配下におかれたも

のとしてとらえるだけではなく、さらに進んで「その対象物を理解・把握する」ということまで表しており、別義（6）とは手段と目的の関係にもあると考えられる。このことから、別義（7）は別義（6）から換喩（メトニミー）によっても意味拡張が成り立っていると考えられる。

〈図1〉「おさえる」の多義構造



3. 日本語教育の観点からの考察—コロケーションの提示と誤用例分析—

本節では、以上の「おさえる」の分析に基づき、それぞれの別義の効果的な学習指導方法について考察する。具体的には、いくつか注目すべき別義の「コロケーション」を提示することによって学習を促すとともに、それぞれの別義において想定され得る「誤用例」も提示し、その理由・原因について検討する。

3. 1 多義的別義（1）

「コロケーション」

〈身体（部分）・生き物・もの〉をおさえる：体、両足、手、肩、子犬、尾、
帽子、裾、紙

〈人〉と（一緒に）おさえる：友達、学生、息子、仲間、後輩

〈手段・方法・道具〉でおさえる：全員、ひとり、自分、指、指先、腕、両手、
素手、足、石、文鎮、棒

〈様態〉おさえる：しっかり、きちんと、ちゃんと、ぎゅっと、確実に、

必死に、慎重に、強引に

〔誤用例〕

(31) a ?家を {押さえる}。(別義(6)の意味ではOK)

b ○机を {押さえる}。

→ 人間の力が及ぶ範囲のものでなければならない。

(32) a ?このロープを {押さえて} 登りましょう。

b ○このロープを {つかんで} 登りましょう。

c ○ロープが動かないようにしっかり {押さえて} ください。

→ 単に力を加えて、ものを持ったり、持ち上げたりする場合は使いにくい。力や重みを加えることによって、元の場所・状態から動かない・離れないようにする場合に用いられる。

3. 2 多義的別義(2)

〔コロケーション〕

〈身体部分〉をおさえる：口、口元、鼻、目、目頭、耳、胸、お腹、傷口

〈手段・方法・道具〉でおさえる：ガーゼ、布、ハンカチ、ティッシュ、
タオル、指、片手、両手、素手

〈様態〉おさえる：丁寧に、慎重に、無意識に、思わず、ずっと、ゆっくり、
しっかり、ぎゅっと、必死に

〔誤用例〕

(33) a ?手で額を {押さえて}、熱を測る。

b ○手を額に {当てて}、熱を測る。

→ この「押さえる」は、単に身体部分に接触・密着させるだけの場合は使いにくい。

3. 3 多義的別義(3)

〔コロケーション〕

〈人・組織〉がおさえる：警察官、ピッチャー、信長、スターリン、政府、
国、与党、経営側

- 〈人・組織〉をおさえる：相手、敵、ベテラン、ライバル、強豪、テロ集団、侵入軍、反対勢力
- 〈行為・活動〉をおさえる：暴動、暴走、反対、要求、ストライキ、テロ行為、騒動、動き、不平
- 〈手段・方法〉でおさえる：実力行使、強攻策、特許権、独特なやり方、政府主導、圧力、武力
- 〈基準・範囲〉におさえる：半年以内、シュート3本、ヒット2本、完封、1点
- 〈基準・範囲〉でおさえる：短時間、たった一日、数週間、10球、完封、3点
- 〈様態〉おさえる：慎重に、無理に、無理矢理、しっかり、ちゃんと、軽く、簡単に

〔誤用例〕

- (34) a ? どうしてもやると言いだした娘 [母] を {抑える} ことはできなかった。
- b ○ どうしてもやると言いだした娘 [母] を {止める} ことはできなかった。
- c ○ ライバル [敵] を {抑える}。
- 一般的に、敵対 (ライバル) 関係にある場合に使われる。
- (35) a ? 席を立とうとする部下を {抑えた}。
- b ○ 席を立とうとする部下を {止めた}。
- c ○ 部下の暴走を {抑えた [止めた]}。
- 単なる動作には使いにくい。何らかの活動 (の実現) を抑制・制止することを表す場合に用いられる。

3. 4 多義的別義 (4)

〔コロケーション〕

- 〈人・組織〉がおさえる：経営者、オーナー、政府、国、政府、運営会社、道路公団

- 〈事柄〉をおさえる：コスト、食費、支出、経費、価格、値段、物価の上昇、
出費、最高速度、甘み、塩加減
- 〈手段・方法〉でおさえる：経費削減、行政改革、金融政策、家計・保険
の見直し、オール電化、コンパクト設計、節約レシピ、手ごろなところ
- 〈基準・範囲〉におさえる：最小限、最大限、時速80キロ、1000字以内、5%、
40時間、半額程度
- 〈基準・範囲〉までおさえる：極限、ここ、50万円程度、90%、10万円半ば、
25時間
- 〈様態〉おさえる：かなり、しっかり、きちんと、きっちり、安く、低く、
低めに、必死に、無理に、コンパクトに

「誤用例」

- (36) a ? 台風の勢いを {抑える}。
b ○ 台風の勢いを {抑える} 技術を開発している。
→ 人為的なコントロールが難しい、単なる自然現象の場合は使いにくい。
- (37) a ? 参加は女性に {抑える}。
b ○ 参加は女性に {限定する [限る]}。
c ○ 女性の参加人数は50名以内に {抑える}。
→ 単に制限・限定する場合は使いにくい。ある範囲・限度を超えないようにする場合に用いられる。

3. 5 多義的別義 (5)

「コロケーション」

- 〈心情・生理状態〉をおさえる：気持ち、感情、衝動、怒り、食欲、興奮、
欲求、涙、笑い、声、嬉しさ、悲しみ、
嫉妬
- 〈様態〉おさえる：ぐっと、必死に、何とか、じっと、ずっと、なかなか(抑
えられない)

〔誤用例〕

(38) a ? 安心感を {抑える}。

b ○ 安心感を {覚える [与える・抱く]}。

→ 「安心感」などの表情に顕著に出ることがない心情の場合、「抑える」を使うことはできない。

(39) a ? 寒さ [暑さ] を {抑える}。

b ○ 寒さ [暑さ] を {我慢する [こらえる]}。

→ 精神的・心理的なコントロールが難しい事柄には使いにくい。

3. 6 多義的別義 (6)

〔コロケーション〕

〈人・組織〉がおさえる：管理者、経営者、生徒、受講生、警察、政府、主催側

〈人・組織〉をおさえる：犯人、証人、容疑者、身柄、アルバイト、企業、テレビ局、会社

〈もの〉をおさえる：チケット、証拠、物件、財産、材料、航空券

〈場所〉をおさえる：現場、会場、式場、ホテル、教室、会議室、席、部屋、土地

〈人・組織・もの・場所〉からおさえる：アルバイト、企業、チケット、会場、ホテル

〈時間〉おさえる：1ヶ月も前に、事前に、先に、早めに、来週までに、契約時に

〈様態〉おさえる：確実に、しっかり、きちんと、必ず、絶対 (に)、正確に、何とか、ひとまず

〔誤用例〕

(40) a ? 五千万円で家を {押さえた}。

b ○ 五千万円で家を {購入した}。

→ この「押さえる」は購入するなど、単にものを所有するような場合は使いにくい。

3. 7 多義的別義 (7)

「コロケーション」

〈事柄〉をおさえる：要点、ポイント、内容、項目、要所、基本、意味、傾向、
本質、概要

〈事柄〉からおさえる：内容、項目、基本、意味、傾向、本質、概要

〈状態〉おさえる：きちんと、すぐ、直ちに、ちゃんと、しっかり、十分、
おおむね、ざっくり

「誤用例」

(41) a ?彼女の気持ちを |押さえる|。

b ○彼女の気持ちを |察する|。

c ○論文のポイントを |押さえる|。

→ 一般的に、知力を働かせて理解・把握するものに使われる。従って、単なる感情を理解・把握する場合は使いにくい。

4. まとめ

以上、本稿では動詞「おさえる」が持つ複数の意味を記述し、それら複数の意味の関連性（多義構造）について考察した。その結果、「おさえる」について7つの多義的別義を認定することができた。別義間の関連性については、隠喩（メタファー）と換喩（メトニミー）という2つの比喩の観点から考察を行い、7つの別義間の関連性を明らかにすることができた。

次に、以上の分析に基づき、それぞれの別義の効果的な学習指導方法について考察した。具体的には、いくつか注目すべき別義の「コロケーション」を提示することによって学習を促すとともに、それぞれの別義において想定され得る「誤用例」も提示し、その理由・原因について検討した。

付記

本稿は国立国語研究所の共同研究プロジェクト『述語構造の意味範囲の普遍性と多様性』において筆者が担当した『おさえる（国立国語研究所『基本動詞ハンドブック』（<http://verbhandbook.ninjal.ac.jp/>））』に修正・加筆し

たものである。

注

- 1 「おさえる」には、「押」「抑」という2種類の漢字表記があるが、「おさえる」の意味の違い（多義的別義）に厳密に対応しているとは言えない。これについて、初山(1994)では、同一の音形に複数の漢字表記が対応する場合について「1つの音に複数の漢字表記があり、漢字表記の違いが意味の違いに関与しない現象」を認めている。本稿においても、漢字表記の相違にのみ依拠する区分は行わず、あくまでも意味の相違にのみ注目するという立場で、以下の分析を行う。
- 2 国広(1982:97)は、多義語について「『多義語 (polysemic word)』とは、同一の音形に、意味的に何らかの関連を持つふたつ以上の意味が結び付いている語を言う」と定義している。本稿においてもこの定義に従う。
- 3 初山(2001:33)は「多義語の複数の意味には相互に何らかの関連が認められるのであるから、個々の多義語の分析にあたり、その関連の実態を明らかにすることが課題となる」とし、「メタファー、シネクドキー、メトニミーという3種の比喩が、複数の意味の関連づけに重要な役割を果たすと考えている」と述べている。
- 4 「隣接性」「関連性」については、様々なケースが考えられるが、ここでは2点を例として示す。

参考文献

- 北原保雄(2011)『明鏡国語辞典』第2版, 大修館書店。
 国広哲弥(1982)『意味論の方法』, 大修館書店。
 新村 出(編)(2008)『広辞苑』第6版, 岩波書店。
 松村 明(編)(2006)『大辞林』第3版, 三省堂。
 初山洋介(1994)「形容詞『カタイ』の多義構造」『名古屋大学日本語・日本文化論集』2, pp.65-90, 名古屋大学留学生センター。
 初山洋介(2001)「多義語の複数の意味を統括するモデルと比喩」『認知言語学論考』1, pp.29-58, ひつじ書房。
 初山洋介(2010)『認知言語学入門』, 研究社。
 初山洋介・深田 智(2003)「第3章 意味の拡張」, 松本 曜(編)『認知意味論』(シリーズ認知言語学入門第3巻), pp.73-134, 大修館書店。

森田良行（1989）『基礎日本語辞典』，角川書店．

森山 新（編著）（2012）『日本語多義語学習辞典 動詞編』，アルク．

山田忠雄・柴田武他（編）（2012）『新明解国語辞典』第6版，三省堂．

例文出典

※本稿における例文は、以下のコーパスを参考にして作った作例である。

- （1）NINJAL-LWP for TWC (<http://corpus.tsukuba.ac.jp/>)
- （2）KOTONOHA「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>)

（い てぐん・准教授）